

(様式1)

## 自己評価票

作成日 平成23年12月19日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0872100896		
法人名	社会福祉法人 克仁会		
事業所名	グループホーム恵苑	ユニット名	Bユニット
所在地	〒311-1207 茨城県ひたちなか市烏ヶ台11836-1		
自己評価作成日	平成23年12月19日	評価結果 市町村受理日	平成 年 月 日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成 年 月 日	評価確定日	平成 年 月 日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>「家庭的な環境と地域住民との交流の下で 安心のある場所でありたい 人と人、心と心のつながりを忘れない」との理念を掲げ、全職員で共通理解を持ち、入居者一人ひとりを尊重し、優しい言葉、常に笑顔で接するように努めている。日々の体調管理をきちんと行い、変化を見逃さず、迅速に対応が出来るように、看護師を中心に協力医療機関とも連携しながら対応している。</p> <p>また、本人の残存機能を十分に活かし、今の生活を維持・向上させていくために、生活の中で役割を持ってもらい、張りのある生活を送ってもらえるように支援している。</p> <p>その他、園芸療法に力を入れており、野菜や果物の栽培や収穫、花壇の手入れや毎日の水遣りなどを職員と共に行なっている。地域に根ざした施設運営を目指しているため、地域との関わりも積極的に行い、地域の行事に参加したり、ゴミ拾いのお手伝いをしたり、苑のお祭りに地域の方に来て頂いたりなど、地域との交流が深まっている。</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

--

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
I 理念に基づく運営			
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境と地域住民との交流の下で「安心のある場所でありたい。人と人、心と心のつながりを忘れない。」を理念に掲げ、事務所のカウンター上に掲示し、全職員に共通理解してもらっている。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	普段より地域に根ざした施設運営を目指し、町内会のゴミ拾いや自治体の行事にも積極的に参加し、苑主催のお祭り等にも参加を呼びかけている。また、地域の保育園児の発表会や近隣の方の慰問、小中学校や専門学校の実習や体験学習等を受け入れ、地域の方達との交流を深めている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症介護アドバイザーや認知症の研修を修了した職員を中心に、本人やその御家族、相談や見学に来た方に対応している。また、自分で対応出来ない時は、各専門部署や専門の職員の意見やアドバイスを受けている。
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、民生委員、家族代表、市の高齢福祉課の職員を委員とする会議を2ヶ月ごとに開催し、入居者状況、行事等について報告している。会議の内容は記録として残し、保管。委員より出た意見やアドバイスを今後のサービス提供に繋げられるように努めている。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員でもある為、定期的な情報の提供と連携は取れている。また、その都度電話や市役所へ出向き、必要な情報の確保に努めている。その他にも市が主催する集団指導へ必ず参加し、職員間でも情報の共有を行なっている。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則、苑としては身体拘束は行なわないこととしており、職員もしっかりと認識している。身体拘束について、各ユニットの掲示板に資料を掲示し、苑内研修や外部研修にても正しい知識を理解している。やむを得ず拘束を行う事になっても、代替策の検討や工夫、定期的な見直しを行い、必要のない拘束は行なわないこととなっている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての資料を各ユニットの掲示板に掲示するとともに、苑内研修においても勉強会を行ない、正しい知識を得ている。虐待についての重要性は全員が認識しており、常に注意を払い、早期発見に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度についても苑内研修にて勉強会を行ない、必要な知識を得ている。入居者の中に成年後見制度を利用している方もおり、後見人や御家族と定期的に情報交換をしながら対応している。また、個々についてはその都度、必要性を判断しながら対応している。
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、不安や疑問等を無くすため、一つひとつの内容について、分かりやすく丁寧に説明をし、すべてを納得、同意した頂いた上で、契約を交わすようにしている。医療面での希望や確認を行うためにも、場合によっては看護師にも同席してもらっている。
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内の廊下に苦情箱を設置。苦情ノートを作成し、本人や御家族からの苦情や要望等は記録し、対応策をすぐに考え、解決している。また、年度末に行なう家族アンケートの結果についても真摯に受け止め、改善を行なっている。
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	入居者の生活のことや業務の内容など、月に一度のケース会議で話し合い、職員の意見・提案として管理者より部長や施設長に報告、提案を行なっている。
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年間目標にて、個人の目標達成の度合いを把握し、定期的な面談にて指導、評価をしている。その際、悩みや大変なこと、職場環境の改善や職員の希望、要望等を確認している。
13		○職員を育てる取組み  代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を定期的な苑外の研修に参加させ、全体会議で報告、全職員で情報の共有を図っている。また、二ヶ月に一度、苑内にて研修会を開催し、それ以外にもミニ勉強会や資料の配布にて知識を深めてもらう取組みをしている。
14		○同業者との交流を通じた向上  代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	代表者は、複数の施設を運営する中での経験や自分自身が研修や勉強会に参加した内容を、管理者を通して職員にも情報提供している。また、訪問してくれた事業者と話をする機会を多く持ち、お互い情報交換を行っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時のアセスメントをきちんと行い、また、関わる時間を多く持ちながら、本人の希望や要望、生活歴や不安なこと等を把握して職員間でも情報の共有を行い、統一したケアを提供する事で、本人に安心してもらえるように努めている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の申込みの段階より、御家族が今、何で困っているのか、今後どのようにしていきたいのか等を確認し、一緒に最善の方法を考えていくとともに、関係機関とお連携しながら状況に応じたサービスを提供していける様にしている。
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を希望していても満床ですぐに入居できない場合には、他の施設の紹介や他の介護保険サービス等について説明を行い、現状の状態に合ったサービスを利用出来るように支援している。また、入所前の相談や入所時の情報を全職員が共有し、必要なサービスが素早く提供できるように努めている。
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームは在宅の延長の施設であり、職員も家族の一人と思って介護をさせていただいている。常に笑顔を絶やさず、一人ひとりを尊重し、喜びや楽しみを共に分かち合えるように接している。また、残存機能を維持するためにも、出来る事は可能な限り、自分で行えるような声掛けもしている。
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に御家族と連絡を取りながら、入居者の状況を伝えている。面会時には一緒に世間話をする等、つながりを大切にしている。また、行事やイベント事には参加を促し、家族と一緒に楽しく過ごせる時間を確保している。
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族や友人、知人等が気軽に苑に来られるよう、面会時にはゆっくりと過ごしていただくためにも、各居室の他、和室や応接室を利用させていただいている。また、普段の会話の中から本人にとっても馴染みの人、場所を把握していけるようにしている。
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	部屋に閉じこもったり、孤立してしまわないように、レクリエーションや行事、慰問等への参加を促している。日々の暮らしの中において入居者同士の良好な関係が築けるように、職員が声掛け、見守りを行い、時には間に入りながら支援をしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、これまで築き上げてきた関係が終わるわけではないので、引き続き良き相談相手となれるよう、「いつでも気軽に来苑したり、連絡をください」ということを伝えている。
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の思いや希望等はその都度変化するため、日頃より入居者と関わる機会を多く作り、把握に努めている。また、認知症の方と接する際に入前の生活や生活歴がとても重要になるため、定期的に御家族と連絡を取り合いながら、支援している。
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、御家族よりこれまでの生活歴や職業、趣味等を確認しファイリングして、全職員がいつでも見られるようにするとともに、情報を共有している。また、普段の生活の中で得た情報をケアプランに反映し、サービスを提供している。
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方は人それぞれ違いがあり、本人の意志を尊重して対応している。心身の状況や現状の把握については担当の職員を中心に把握を行い、変化があった時には、随時看護師に相談をして対応を決めている。
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヵ月ごとに担当職員がモニタリングを行い、看護師、計画作成担当者と共に、ケアプランを作成している。完成したケアプランについては御家族に郵送し、署名・捺印をいただいている。その際に、御家族の希望や要望、ケアプランについての疑問点等を確認している。
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌・ケース記録・月間記録表に個人の状態や状況が記録しており、職員は仕事に入る前に必ず記録を確認することになっており、情報の共有を図っている。ケアプランを作成する際にも記録物を確認してプランに生かすようにしている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や御家族の希望にはできる限り応じるように努力している。例えば、入浴の時間帯、曜日の変更や食事内容の変更、受診の希望など。

自己評価	外部評価	項 目	自 己 評 価
			実 施 状 況
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	様々なボランティアや学生・実習生の受け入れをしている。地域の担当民生委員や自治会長とも定期的に話をする機会を設け、地域についての情報を提供してもらっている。
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や御家族の希望するかかりつけ医に受診ができるように配慮するとともに、協力医療機関と連携し、必要な医療が適切に受けられる体制を取っている。また、協力医療機関以外を受診する場合には、苑での生活状況が分かりやすいように介護サマリーを作成し、御家族に説明をしたうえで、お渡ししている。
31		○看護職員との協働  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の健康管理と協力医療機関との連携については看護師が行なっている。介護職も医療面については、看護師に必ず報告をすることとし、お互いに協力しながら業務を行なっている。
32		○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後と退院前には、協力医療機関と家族を含めて話し合いを持っている。洗濯物や荷物を定期的に取りに行き、その際に医師や看護師より状態を確認し、退院について御家族とも調整を行なうようにしている。
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の契約時、また重度化してきた段階で、御家族と話し合いを行い、現状の報告と終末期の希望を確認し、希望に沿った対応ができるように、全職員、協力医療機関が連携して支援してしていくようにしている。また、家族と話した内容は記録として残している。
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普段から看護師に状況に応じた対応方を確認している。緊急時対応マニュアルに沿って、看護師と連携を取りながら、迅速に対応できる体制を作っている。また、苑内研修においても急変時の対応方法について勉強会を行ない、知識や技術を深めている。
35	13	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時対策マニュアルに沿って、職員に周知をしている。また、安全管理委員会を中心に災害や緊急時に備え、定期的な避難訓練、消防訓練を行い、専門業者に指導を受けている。また、備蓄品（食料や備品）についても定期的の確認を行い、必要なものを確保している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの人格やこれまでの生活歴を尊重している。また、言葉使いには十分に注意し、優しい言葉、態度で接している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事を自分で選んで食べる（選択食）を毎月実施したり、買い物や散歩、レクリエーションの内容や入浴の時間、順番などの希望を聞く機会を作り、出来る限り自己決定してもらえるように支援している。
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムやペースは人によって違うため、決して職員や苑の都合で生活するのではなく、その人に合った生活スタイルで過ごしてもらえるように、その都度希望を確認しながら希望に沿った支援を行なっている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びは出来るだけ自分で行ってもらい、季節に合わせた洋服を着てもらおうようにしている。起床時の洗顔や整容もきちんと行い、散髪についても、本人、御家族の希望を確認しながら、定期的にかかれるように地元の理容店に協力していただいている。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際には落ち着いた雰囲気のものや季節に合わせたBGMを流し、テーブルの上には花を飾る等、食べる以外にも楽しみを持ってもらっている。食事については、盛り付けを一緒に行ったり、後片付けを行ったり、職員と一緒に楽しみながら行なっている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の内容は管理栄養士の指示に基づいた物を提供し、定期的に嗜好調査を行い、調理の内容や食事の形態、代替品の準備するなど、臨機応変に対応している。食事、水分量については毎食チェックを行い、健康チェックの目安としている。
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔内のチェック、ケアの支援を行なっている。義歯等もまずは自分で洗ってもらい、出来ない部分のみ職員が介助している。また、異常を感じた時は協力歯科機関にて、すぐに対応してもらっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄を基本として、排泄パターンの把握を行っている。オムツを使用している方についても、オムツはずしに向けての取り組みを生活支援委員会を中心に行なっている。
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ナースにて、毎日排便チェック、水分・食事量のチェックを行い、本人の状況に合わせた対応をしている。また、腸の動きを活発にするためにも、本人の負担にならない程度で、ラジオ体操やリハビリ体操で体を動かしている。
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴する時間や順番は本人の希望を尊重している。季節感を味わうために、菖蒲湯やゆず湯、リンゴ湯なども楽しんでもらっている。入浴日に体調不良等で入れない時は、清拭や衣類交換で対応したり、曜日をずらして対応している。
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後の休憩や日中のお昼寝などは、自由とし、いつでも休息を取れるようにしている。夜間帯は安心休めるように2時間ごとに居室に訪室し、安全を確認している。また、眠れない等の訴えがある人には、暖かい飲み物を準備したり、話を聞いて安心してもらったりしている。
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の飲んでいる薬については、薬情をファイリングしてあり、内容の確認や何の薬を飲んでいるのかなど、すぐに確認できるようになっている。内服する薬は内服する分をその都度用意し、箱の中に入れてある。内服については最後まで飲み込む所まで確認を行っている。
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や食器拭き、朝の放送やお掃除の手伝いなど、負担にならない程度で一人ひとり役割を持ってもらい、職員と一緒にいる。また、野菜・果物の収穫や花壇の手入れ、作品作りやカラオケなど、毎日を楽しんで過ごしてもらえるように工夫している。
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望に応じて散歩に出たり、苑外でお茶を飲んだりしている。定期的に外に出る行事を企画し、外出の機会を確保するとともに、御家族にも協力を依頼して外出や外泊を促している。



自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理は事務所で行なっているが、本人の申し出により、お金を渡している。また、買い物会等での支払いは職員見守りで行なってもらい、金銭感覚を忘れないようにしている。</p>
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>公衆電話を設置し、自由に電話が出来るようにしてある。また、本人より希望がある時は電話番号を調べたり、電話を掛けてあげるお手伝いをしている。その他、季節ごとに絵手紙を作成し、御家族に送っている。</p>
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用部分は入居者に不快な思いをさせないように、いつも清潔に、きれいな状態にしている。居室の入口には季節に合わせた飾り物を飾ったり、自分達で作った作品を飾ったりしている。また、苑内の温度や湿度管理を徹底し、快適に過ごせるように配慮している。</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>広い居室、食堂、和室を設置しており、ゆったりと過ごせる空間となっている。また、座席についても気の合う入居者同士をうまく組み合わせやすく配慮している。また、苑外にはベンチを設置し、入居者や御家族が自由に過ごせるようにしている。</p>
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には自宅で使用していた、本人、御家族にとって馴染みのある物を置いてもらい、自宅の一室と同じように使用してもらっている。また、御家族の写真を貼ったり、遺影や仏壇を置いたりして、それぞれの思い出を大切に出来る環境作りを心掛けている。</p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>施設内はバリアフリーとなっており、廊下やトイレ内には手すりを設置するなど、不自由なく安全に過ごせるようになっている。また、各居室は、本人の状態に合わせて、安全に過ごせるように家具等の設置場所を工夫している。</p>

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない